

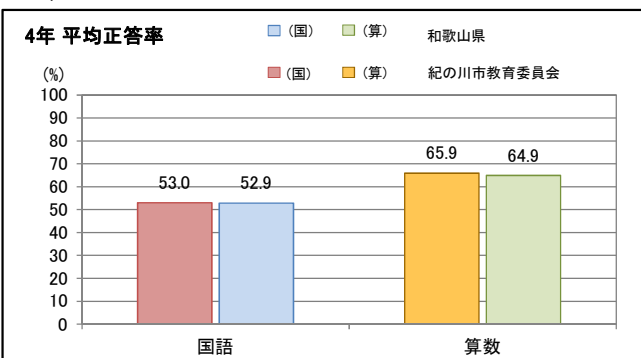
○教科別平均正答率と無解答率

	4年				5年					
	平均正答率 (%)		無解答率 (%)		平均正答率 (%)			無解答率 (%)		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	理科	国語	算数	理科
紀の川市	53.0	65.9	5.9	1.5	59.3	63.9	66.5	2.4	1.5	1.2
和歌山県	52.9	64.9	9.2	2.5	57.3	62.7	63.6	4.4	2.7	2.4
県比	0.1	1.0	-3.3	-1.0	2.0	1.2	2.9	-2.0	-1.2	-1.2

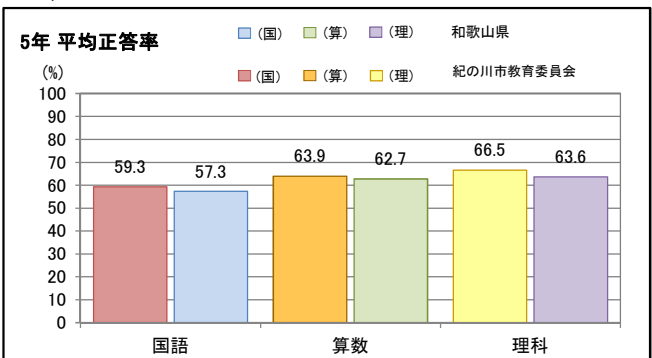
※正答率が県平均を下回る箇所は、朱書きしています。

○平均正答率と解答状況

<4年>



<5年>



○調査結果より

<4年生>国語、算数共に県平均正答率を上回り、概ね学習内容が定着しているといえる。

(国語)・考えたこととそれを支える理由を明確にして書くことを求められる問題では、県平均を5ポイント以上上回った。「読むこと」「書くこと」で県平均を上回っている問題が多くなってきている。主語と述語の関係や、文章の内容のまとまりを捉えたりすることを意識して学習してもらいたい。

(算数)・データを活用する問題、三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題では、記述式であったが無解答率は県より低く、正答率は県を3ポイント以上上回った。

<5年生>全ての教科で県平均を上回る。

(国語)・無解答率の低さから、昨年度に引き続き、粘りよく問題に取り組んでいる様子をうかがうことができ、ほとんどの問題で県平均を上回っている。書く目的を意識した書き表し方になるよう文章を整える、物語の全体像を具体的に捉えるなどの問題は、県平均を4ポイント以上上回った。

(算数)・全ての問題において県との差はほぼないが、1より大きい部分の大きさを分数で表す問題については県同様、課題が見られる。また、4年生の時と同様に、データを活用して示された事柄が正しくない理由を説明する問題には課題が残されている。

(理科)・「電気のはたらき」「水のゆくえ」「植物の成長」などの問題では、県平均を5ポイント以上上回っている。

○今後の取り組み

授業については、児童が主体的に学べるような課題やめあての設定、ペアやグループ活動で対話しながら学べるような場面設定などが積極的に取り入れられ、児童が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識した授業づくりが進んできました。さらに、タブレット端末については、友達との対話や、考えを共有するために活用したり、思考を整理するために活用したりする場面が多く見られるようになってきています。今後も個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、効果的な使い方を研究、推進していきます。

全体的に平均正答率が県平均を上回る問題が多く、児童が力を付けてきていることが分かります。国語科「読むこと」の領域でさらに力を付けていけるよう、学校図書館を活用した授業、自分の考えを書いたり、友達に伝えたりする活動、根拠を基に説明したり、話し合ったりする活動を授業の研究に取り組んでいきたいと考えます。

子供達の学習内容の定着を図るためには、家庭学習は欠かせません。保護者の皆様には、端末を活用した宿題や予習復習などに取り組むための環境整備と学年×10分+10分を目安として家庭学習の時間確保へのご協力をお願いします。